

## 平成 30 年度 学校経営研修会報告書

1. 研修目標： 「未来を拓く私学教育」
2. 期 日： 平成 30 年 7 月 5 日（木）・6 日（金）
3. 場 所： 熱海市 ホテルニューアカオ ロイヤルウィング
4. 参加者： 55 名
5. 日 程：
  - 7 月 5 日 12:45～13:00 受付
  - 13:00～13:10 開会式
  - 13:10～14:50 講演  
「高大接続改革で教育がどう変わるのか」  
～私立学校に求められるものとは～  
リクルート進学総研 所長  
リクルート「カレッジマネジメント」編集長  
小林 浩氏
  - 15:00～15:30 グループ討議説明  
入試検討委員長 仲田 晃弘委員長
  - 15:40～17:30 分科会  
「私立高校入試日程について」
  - 18:30～20:30 夕食懇親会
  - 7 月 6 日 7:00～ 8:30 朝食
  - 8:30～ 9:00 グループ討議報告
  - 9:00～12:00 私学協会理事長・校長会
  - 12:00～ 閉会式～昼食後解散

- 1・講演 「高大接続改革で教育はどう変わるか ～私立学校に求められるものとは～」  
リクルート総研所長  
リクルート「カレッジマネジメント」編集長  
小林 浩 氏

これまでの社会はいわゆる工業化社会で、そこでは人口ボーナスを前提とし、欧米にキャッチアップすることを目標に大学進学率を上げることでリーダー養成に取り組んできた。知識技能の習得と再生、つまり情報処理能力が高く、一つの解を効率的に求める人材として、同質文化の中でキャリアを積み上げる社会構造だった。しかし、これからの社会はグローバルに多極化する社会で、人口オーナスを前提にした知識基盤社会に変質しつつある。そこでは知識技能の活用能力、情報編集力が求められ、複数の納得解を探しながら、異文化多様性を許容し、自分のキャリアを切り開くことが求められる。経済産業省及び産業界は社会人基礎力として、前に踏み出す力（アクション）として

主体性・働きかけ力・実行力、考え抜く力（シンキング）として課題発見力・計画力・創造力、そしてチームで働く力（チームワーク）として発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性。ストレスコントロールを3つの力と12の能力要素と考えた。

一方、大学入学前の若者に対し、高校生、保護者、教員が考えている必要だと思う能力と現在持っている能力を比較するとギャップがある。主体性や実行力が必要だと思う能力の上位にくる反面、持っている能力は傾聴力や規律性が上位にくる。産業界は大学教育にこのギャップを埋める教育への質的転換を期待している。

高大接続改革は、産業界の要請に対して学力の3要素として①十分な知識技能②それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見出していく思考力・判断力・表現等の能力③これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けさせるために、①高等学校教育②大学教育③大学入学者選抜の3つを、一貫した理念のもと一体的に改革を行おうとするものである。

高校教育と大学教育は、受け身の教育からそれぞれ質の保証と質的転換を求められる。特に大学入学者選抜では、志願者の学力・意欲・適性・総合的な評価などを各大学の個別選抜と大学入学共通テストで測ろうとするものである。具体的には大学の教育水準や質の評価指標を大学教育の質的転換に、進学希望者の学力・意欲・適性の判定を選抜に、高校における学力状況把握・幅広い学習確保・学習意欲喚起を高校教育の質保証に関連付けようということである。

高校教育において、次期学習指導要領改訂の方向性は2030年の社会と子供たちの未来を見据え、新しい時代に必要となる資質・能力として、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養と生きて働く知識技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等を育成し、何ができるようになるのかを重視する。そのために、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む「社会に開かれた教育課程」実現に向けて、各学校における「カリキュラム・マネジメント」を実現させる。具体的に何を、どのように学ぶかといった点で、新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容を見直し、小学校の外国語教育の教科化や高校の新科目「公共」の新設を実施し、各教科で育む資質・能力を明確し、目標内容を構造的に示すと同時に、主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点から学習過程の改善に取り組む。特に国語においては言語、地歴公民で科目の統合、理数科目での探求を必修化する。これらを元に多面的な評価を推進し、進学と就職に接続させていく。その仕組みとして、国が基準を策定し、高校教育の公的な質保証がされた測定ツールにより、教師や学習者自身がそれを活用し、学習指導の工夫充実、PDCAサイクルの取組を促進させることになる。

この流れを前提に大学教育でもPDCAサイクルを確立し、3つのポリシーに基づく一貫した大学経営と価値の浸透を図っていく。各大学は建学の精神や教育理念等のミッシ

ョンやビジョンを明確に、独自性や個性を打ち出し、アドミッションポリシーで入学者に求める学力、カリキュラムポリシーで教育課程の編成・内容、ディプロマポリシーで卒業認定や学位授与方針を学生に理解させ、入学から卒業まで一貫した教育マネジメントに取り組ませるのである。

そのための大学入学者選抜の改革が行われることになる。そこでの基本的な考え方は、大学入学者選抜が、「学力の3要素」の育成に向けて、高等学校における指導の在り方の本質的改善を促し、また、大学教育との質的転換を大きく加速し、改革の好循環をもたらすものとなるよう、個別大学の入学者選抜と大学入学者選抜における共通テストの双方の在り方について改革を進めることである。

共通テストは試行段階であるが、個別大学ではAO、推薦、一般入試の全てにおいて、各大学のアドミッションポリシーに基づき学力の3要素を多面的に、総合的に評価しようと、具体的取組が始まり出している。そこでのポイントは各大学の強み、特色や社会的役割を踏まえつつ、大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか、入学者に求める能力は何か、入学者選抜において、高等学校までに培ってきたどのような力をどのように評価するか、である。

## 2・グループ討議説明及びグループ討議

「私立高校入試日程について」 入試検討委員会 仲田 晃弘委員長  
非公開。

## 3. 静岡県私学協会 理事長・校長会

非公開。

## 4. 分科会報告

非公開。

(記録文責：藤枝学園 仲田)